



ユニットケアへのはじめての一步

～今を自分らしく生きることに取り添いながら～

特別養護老人ホーム 昂
中山 玲子

施設で暮らすこと⇒高齢者の苦悩

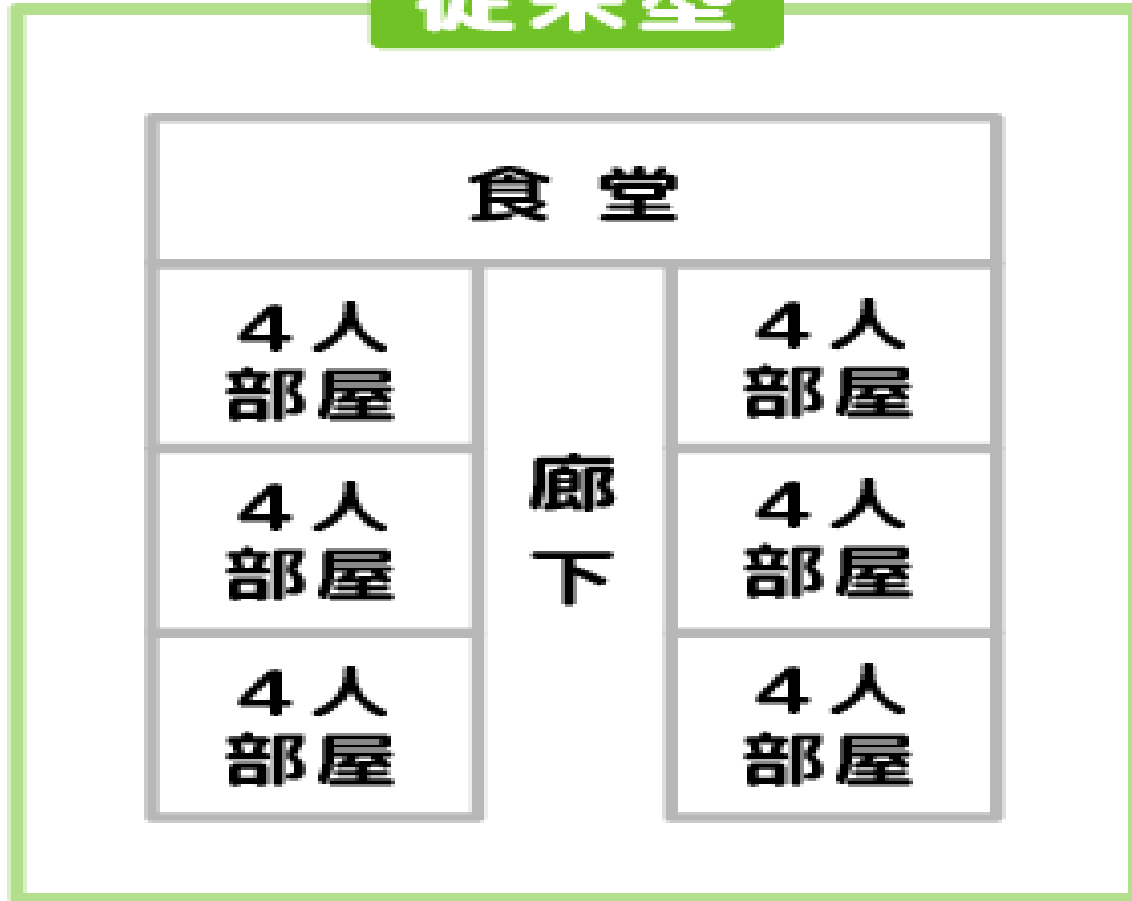
ひとりで自分のことができない



- ・施設へ入ることが不安
- ・自分の家で暮らせない喪失感
- ・家族と離れて生活する寂しさ
- ・友人や地域の人との交流を失う
- ・自分の生活スタイルを変えなければならない
- ・集団生活でプライバシーが守れない
- ・**役割の喪失**

従来型とユニット型施設のの違い

従来型



ユニットケア型



ユニットケアとは？



個別ケアのひとつの手段

- 生活の場 → 自宅での生活に近い環境を提供し今までの暮らしを継続する
- 自分らしく生きる → 一人ひとりの個性や生活スタイルに合わせる
- プライバシーのある社会的な暮らし → 個室とリビング及び共有スペース
- いつもの顔 → 10人程度の入居者と、決まったスタッフがケアをおこなう
- 人としての生きる喜び → 他者との人間関係の構築
- 国が定める指定基準 (基本方針：第33条)



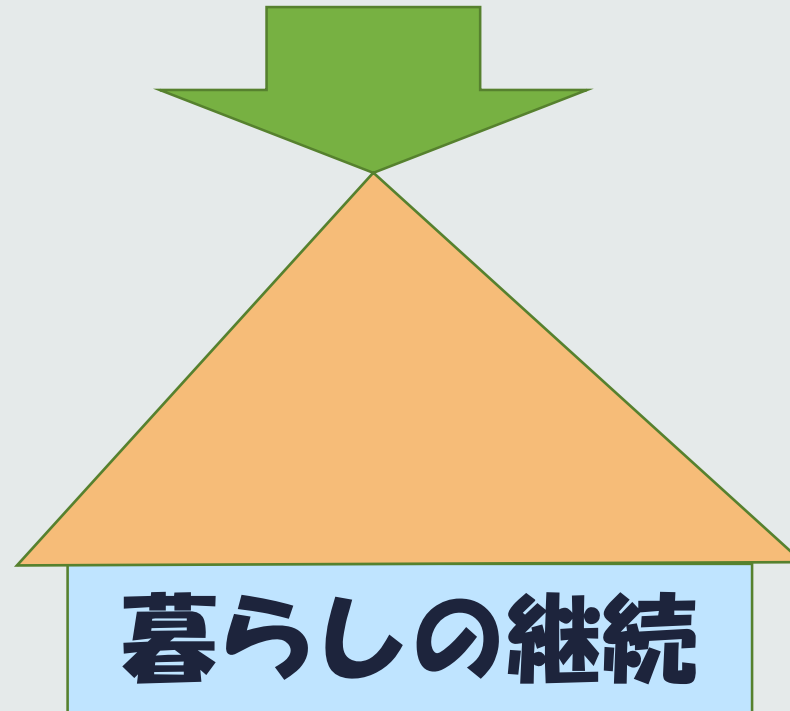
特別養護老人ホーム設備及び運営に関する基準（抄）

（平成11年3月31日厚生労働省令第46号）

注：平成24年3月30日厚生労働省令第53号改正現在

【基本方針】

第33条 ユニット型特別養護老人ホームは、**入居者一人一人の意思及び人格を尊重**し、入居者へのサービスの提供に関する計画に基づき、その居宅における生活への復帰を念頭に置いて**入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したもの**となるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援しなければならない。



特別養護老人ホーム 昴 運営理念

私の大切な人と私が、暮らしたい最高の居場所をつくります

行動指針

- ① 相手の心に寄り添います。
- ② 笑顔と真心でゆとりをもって行動します。
- ③ 入居者様が、自分らしい暮らしを継続できるように日々努力します。
- ④ ご家族、職員、地域がチームワークでサポートします。



ユニットケアのポイント⇒理念

第33条に基づく

(暮らしの継続)

少人数体制

- ユニット = 10 人以下
- 生活単位と介護単位の一致

なじみの顔

- 職員を固定配置する
- 入居者様同士の交流

個別ケア

- 細かな情報把握
- 的確なケアプラン

ユニットケアで大切にしている視点

利用者が主体



今までの暮らしをアセスメント



その人なりのごく普通の生活



ユニットケアの3つの保障



自己決定の尊重

- 自分の存在価値を認識
- 人権の尊重



残存能力の活用

- できないことだけ手伝う
- 意欲の向上



生活の継続性

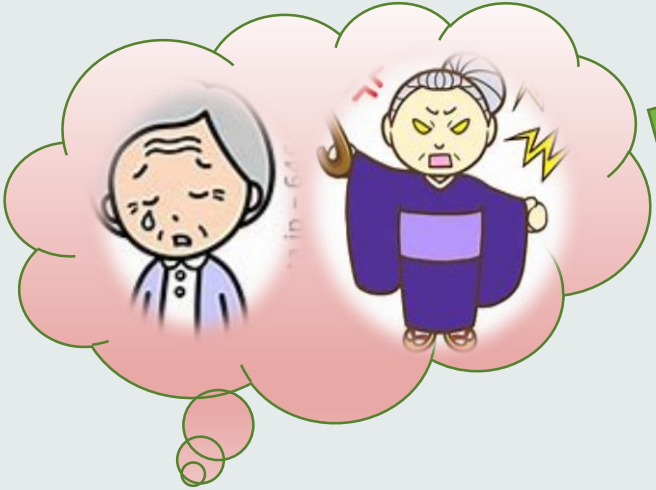
- 生活習慣・生活様式の継続
- 人間関係の継続⇒精神の安定

個別ケアの大切さ

<事例1>

Y様 要介護4女性 94歳 車いす (全介助)

既往歴：高血圧 認知症 不眠症
特徴：言葉が聞き取りにくく難聴
気分にもうがあり介助拒否あり



ユニットでの対応

- ・気持ちに沿う声掛けをした
- ・笑顔で対応し傾聴した。
- ・昔、亀田甚句が好きだった
⇒亀田甚句を唄ってみたら唄いながら踊りだした。
- ・食事は、自力摂取を促し食べやすい器に変えた。
- ・終末期に自宅へ帰り一家団欒のひとときを過ごした。

<課題>

- ・頻回に職員を呼び止め、落ち着かない。
- ・介助に対して否定的で介護抵抗があった。
- ・栄養状態悪く体重減少。
- ・死んだ方がいいと悲観的。

- ・好きな歌を唄ったり踊ったり、自分らしさを自由に表現
- ・笑うことが増えた
- ・自分の思い出を話す
- ・自分で食事を食べる
- ・車いすで風を感じて走っていた
- ・終末期にベッドの上で踊りだす



個別ケアの大切さ

<事例2>

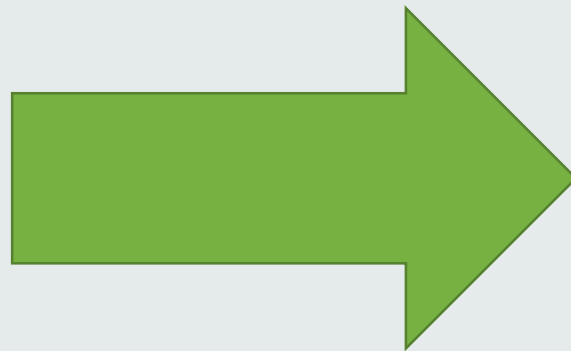
〇様 要介護4 女性 97歳 車いす (全介助)

既往歴：骨粗鬆症 認知症 右小脳梗塞・腰椎圧迫骨折

特徴： 難聴と認知症状が進行。

他者とのコミュニケーションはまれに通じるが困難。

穏やかでもの静か。おしゃれで好き。早起き。



ユニットでの対応

- ・入居当初、入れ歯を外す時、大きな声を出して抵抗があった。
⇒耳元で単語をゆっくり分かりやすく話すことで理解でき介護抵抗が減少した。
- ・終末期、最後の1週間はご家族で居室で宿泊され看取っていただいた。

個別ケアの大切さ

<まとめ1>

<事例1>

Y様 要介護4女性 94歳 車いす

既往歴：高血圧 認知症 不眠症

特徴：言葉が聞き取りにくく難聴、
他者との交流が困難

性格：寂しがりや。喜怒哀楽が激しく1番が好き

生活歴：小学校を卒業後、まもなく働きに出る

<事例2>

O様 要介護4女性 97歳 車いす

既往歴：骨粗鬆症 認知症 右小脳梗塞 腰椎圧迫骨折

特徴：難聴と認知症状が進行
他者との交流が困難

性格：穏やかでもの静か

生活歴：17歳で結婚し専業主婦



同じ介護度で同じ年代。
しかし、性格や価値観、心地よ
さの感じ方は一人ひとり違う！

個別ケアの大切さ

<まとめ2>

きめ細やかなアセスメント⇒現状に即したケアプランへ



昴でのユニットケアの取り組みと課題

今までの取り組みと実績

- ユニットケアリーダー研修修了者…5名
- ユニットケア管理者研修修了者… 1名（施設長）
- 施設理念の改定
- ユニットケア推進プロジェクトチームを発足
- 職員間の信頼関係及び連携が良好
（ユニットチームの成長）
- 入居者様に、最期の時まで寄り添う心がまえがある職員が増えてきた

今後の課題

- 新しい施設理念の職員への浸透
- ユニット職員の固定配置
- きめ細やかな情報把握と分析及び状態に即したケアプランの作成
- 個別ケアプランに沿ったケアの浸透と実践
- 情報の共有化
- ボランティアの活用 ・地域交流の促進
- 昴ならではの特色のあるケアの模索

私たちのケアしだいでその人の人生の展望が変わっていく！

ユニットケアへのはじめての一步(～今を自分らしく生きる～)

結論

同じ目標を持つことから始めよう！



高齢者を尊敬、敬愛する心を持つこと

人がどのように生き、どのような最後を迎えるかは本人が決めること

偶然は必然であり、一期一会の出会いを大切に想うこと

高齢者の希望を、その人の目線で見据え創造しチームで共に実現していくこと

まごごろを忘れずに、ぬくもりを感じる居場所みんなで作っていきましょう！

今の自分にできる事を少し形にしてやってみよう！



ご清聴ありがとうございました